

12月のGlobal Sessionのお知らせ

期日：2024年12月15日(日) 1:30~3:00

(午後からです。午前中はひまわり教室)

場所：ガレリア3階会議室

ゲスト：村田英克さん(JT生命誌研究館表現を通して生きものを考えるセクター 研究員)

タイトル：「食草園から学んだ“もちあじ”」

参加費：600円(こどもは無料)

10名くらいまで(申し込み：児嶋きよみへ)

e-mail：kiyomi-koijma@gaia.eonet.ne.jp

「食草園から学んだ“もちあじ”」

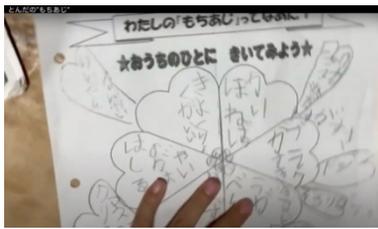
村田英克

オンライン活動写真館「みんなの”もちあじ”」支配人・活弁
JT生命誌研究館 表現を通して生きものを考えるセクター 研究員

年に一度のお招きをありがとうございます。ここ数年、G.S.でお話させていただくことが、自らの歩みを振り返り、次のステップを模索する大変、有意義な機会となっており、改めて感謝申し上げます。

さて、一昨年は「チョウの食草園」の映画のお話を、昨年は「地元小学校の150周年映像」のお話をさせていただきました。そのような、これまでの流れの必然として?! 今年は、その小学校で、児童・学校・地域と協力して「チョウの食草園」を実際につくってしまいましたので、その短い記録映像を交えながらの近況報告です。

私は、これまでも一貫してお話しして参りましたように、生命誌研究館の立場としては「私たちは、多種多様な生物種のうちの一存在に過ぎない」という謙虚な事実認識に基づくパラダイムシフトを、一人一人の心のうちから、自ずから湧出させるような生命論的世界観に基づく表現活動(いや、道端の雑草と誰でも知ってる蝶々の関係の物語とか…ですよ)を行うと同時に、私は、生命科学を持ち出さずとも、現代社会で毎日の暮らしを生きる「一生活者」として、「多様性に価値を、存在の数だけ尊厳を認める」世界(みんな違って、みんないい!というような大人も子供も分け隔てなく共感しうる心の豊かさ…ね)のありようを示唆するキーワードとして(小学校PTA会長の立場から改めて学んだ)“もちあじ”という言葉の羅針盤として、その言葉から生み出される豊かさへの気づきとその展開として、最近、「オンライン活動写真館『みんなの“もちあじ”』」なる動画配信サイトを立ち上げて、さまざまな地域の公益市民活動への貢献をはじめました。その目指すところなどについて、2024年度の活動報告として、私の思いを聞いていただけましたら幸いです。



・「もちあじの花を咲かそう！」 ・小学校の食草園「笑顔の里」

※別添参考：「オンライン活動写真館『みんなの“もちあじ”』」活動事例紹介。

JT 生命誌研究館：

JT 生命誌研究館は、[大阪府高槻市紫町](#)にある[生命科学](#)に関連した展示と研究を行っている[博物館](#)である。[1993年](#)設立。[日本たばこ産業](#) (JT)によって運営される[企業博物館](#)である。

38 億年 生きている

わたしもアリもタンポポも。

小さな生きものを見つめ、研究し、その成果や面白さを表現することを通して、自然・生命・人間について考える場（ホール）です。

館長：細胞生物学者で歌人の[永田和宏](#)さん